

平成 29 年度

東京富士大学大学院 経営学研究科

一般入学試験Ⅱ期

論 文

<注意>

1. この冊子には，問題文(2枚)と解答用紙(3枚)が綴じてあります.
2. 試験開始の合図があるまで問題・解答用紙を開いてはいけません.
3. この冊子の表紙にある受験番号，氏名欄を必ず記入下さい.
4. 解答は「横書き」「日本語」で記入のこと.
5. 原則として，この冊子は交換しませんので，注意して扱って下さい.
6. 試験終了後，この冊子は回収します.

受験番号	氏名

次の問題 1 から 8 の中から 2 問を選択し所定の用紙に解答しなさい。

また、選択した問題番号を○で囲みなさい。

1. 中小企業に求められている「オンリー・ワン型経営」とは何か、また、それが求められるようになった背景について論述せよ。

2. F・W. テイラーの科学的管理法について論述しなさい。

3. 電気製品について、中核的製品、実際の製品、拡大的製品という概念を用いて、製品レベルを説明して下さい。

4. 5年前に、後継者 B 氏（大学卒業後、大手企業に勤務、当時 35 歳）は創業者である父親 A から家業（食品製造業で従業員 50 人の会社）を継ぐことを要請され入社。入社後、現場から営業、総務な一通り経験し、取引先からも信頼関係ができてきた。
40 歳になり、父親から事業承継を言い渡された。しかし、社内では、現社長（父親）がワンマン経営であったので、幹部を含め社員は創業者に従っているが、創業者 A の”思い“を引き継いだ B 氏のやり方には「お手並み拝見」という冷たい姿勢で見ている。そのため、社内は小さい組織であるがバラバラな感じがする。B は、経営の一新を図りたいと考えている。後継者である B 氏の経営者の役割として何が必要か。あなたの意見を述べなさい。

5. 法人税において「役員給与」について損金に計上される要件を述べなさい。

6. 実質所得者課税の原則について説明しなさい。

7. 企業会計基準委員会（2006）『討議資料 財務会計の概念フレームワーク』において、純利益と包括利益を並存させている理由を説明しなさい。なお、解答に当たっては、(1) 包括利益の定義、(2) 純利益の定義、(3) 包括利益と純利益の関係にも触れること。

8. 資産除去債務に関する下記の問いに答えなさい。

(1) 資産除去債務の意義と、会計上の処理について説明しなさい。

(2) 下記のデータに基づき、2017年4月1日の仕訳と2018年3月31日の仕訳を適切な科目により示しなさい。なお、解答に際して金額は省略してよいが、円未満の端数が生じた場合は、当該端数を切り捨てるものとする。当期は、2018年3月31日を決算日とする1年間である。

(データ)

① 2017年4月1日に、機械装置24,000,000円を小切手を振り出して購入し、耐用年数5年として使用を開始した。なお、当該機械装置は、耐用年数経過時に、除去すべき法的義務があり、除去時に1,440,000円の支出を要すると見積もられている。割引現在価値の計算に適用する利率は、2%とする。

② 2018年3月31日、決算に当たり、当該機械装置を、残存価額0、定額法で減価償却し、資産除去債務を調整した。